

略 歴

- 1925 中部ジャワのプロラに生まれる
- 1942 - 45 日本占領下
ジャカルタにある日本の同盟通信社でタイピスト、後にタイプ・速記の講師
ジャカルタの中央参議院付属の速記学校に在籍し、経済学、政治学、哲学を学ぶ
- 1947 ジャカルタの出版社「自由インドネシアの声」でインドネシア語誌の編集者
- 1947 - 49 オランダ政権下で逮捕、投獄
- 1951 - 52 ジャカルタの国営出版社「バライ・プスタカ」でインドネシア現代文学編集者
- 1959 - 60 スカルノ政権下で逮捕、投獄
- 1962 - 65 ジャカルタの日刊紙「ビンタン・ティモール」の文化欄「レンテラ」編集者
レス・パブリカ大学講師としてインドネシア文学、歴史を教える
- 1965 - 79 スハルト政権の「新秩序」体制下で逮捕（ジャカルタとヌサカンバンガンに4年投獄、ブル島に10年流刑）
- 1978 日本ペンクラブ客員会員
- 1982 オーストラリア北ペンセンター客員会員
スウェーデンペンセンター客員会員
- 1987 アメリカペンセンター客員会員
- 1988 アメリカペンセンターより執筆の自由賞
- 1989 スイスドイツ語ペンセンター会員
- 1992 イギリスペンセンター会員
- 1995 マグサイサイ賞
- 1996 ユネスコ、マダンジート・シン賞
- 1999 ミシガン大学名誉博士
カリフォルニア大学バークレー校より名誉総長賞
フランス政府より芸術勲章シュバリエ

主な作品

- 『追跡』（1950） 『ゲリラの家族』（1951）* 『虐げられた者たち』（1951）
『プロラ物語』（1953） 『汚職』（1954） 『インドネシアの華僑』（1959）
『ララサティ』（1960） 『浜の娘』（1962）
『私をカルティニとだけ呼びなさい』（1965） 『人間の大地』（1980）*
『すべての民族の子』（1980）* 『足跡』（1984）* 『先駆者』（1985）
『ガラスの家』（1987） 『ある唾者の孤独のうた』第1巻、第2巻（1995-97）
『アロック・デデス』（1999）

[*印のあるものは、邦訳あり（押川典昭訳、めこん刊）]

※40以上の小説および短編を執筆、世界で20以上の言語に翻訳されている